

Title	ライフマネジメントにおける効率とヒエラルキー
Sub Title	
Author	石山佳史(Ishiyama, Yoshinobu) 田中滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第584号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0584">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0584</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	石 山 佳 史	主査	田 中 滋
	(日本生命保険相互会社)	副査	藤 枝 省 人
所属ゼミナール	田 中 滋 研		青 井 倫 一

## ライフマネジメントにおける効率とヒエラルキー

伝統的な勤勉・貯蓄志向から、消費そのものを楽しみ消費生活を通して自己表現をしていくという方向にライフスタイルが変貌しつつあり、各方面で「豊かさ論」が華々しく展開されている。

当論文では、豊かさとは何か、どのように測定されるのかといった点を整理したうえで、家計の支出行動（貯蓄行動を含む）という側面から、豊かさの階層性や豊かさの底上げという観点からみた場合の問題点を明らかにし、これからの支出行動には何が求められるのかを考察した。

支出行動の分析に際しては、豊かさの度合いを測るため、独自の支出項目分類を用い、制約条件としては所得・時間・能力・健康の4要素を意識した。分析データは、過去5年間の家計調査年報と、全国5大都市のビジネスマンに対して行ったアンケート調査の結果を用いた。

調査の結果、最もクローズアップされたのは消費と貯蓄のアンバランスである。貯蓄は所得の伸びを上回るペースで行われているが、その目的をみるとむしろ消費に向けた方が、豊かさへの貢献度が高いと判断されるものが少なくなかった。所得階層による支出格差は貯蓄と教育費において最も顕著にあらわれており、「時間」に対する価値感にも所得階層による違いが認められた。支出内容の分析結果からは、所得格差以上に「豊かさの階層格差」が存在し、今後はその格差がますます拡大していく可能性があることも示唆されていた。

また、ビジネスマン・アンケートの結果を数量化Ⅲ類により分析したところ、ビジネスマンの現在の支出行動は概ね同じようなパターンを示しているが、今後所得や余暇が増大するといくつかのタイプに分かれていく可能性があることがわかった。

今後の支出行動には、過剰貯蓄の回避と自己の能力の蓄積につながるお金や時間の使い方が求められ、それを援助するような社会システムの整備やサービスの提供が望まれるとの結論を得た。